



## 1. (一社) 日本エネルギー学会の概要と現在の状況

(一社) 日本エネルギー学会は 1922 年に設立され、エネルギーの供給、輸送、利用など幅広い側面からエネルギーに関わる諸課題を解決していく事により、我が国ひいては世界に貢献していく事を目的とした学会である。1992 年に現在の名称である日本エネルギー学会と改称するまでは、燃料協会という名称であった。そのため元々は、石炭、天然ガスなどの化石燃料利用に関わる研究課題が主体であったが、近年は、バイオマスや太陽光などの再生可能エネルギーなどが注目されるに応じ関連研究者の参加が増加していると共に、エネルギーの効率的利用など消費者に直結する課題なども多くなって来ている。東日本大震災以降、エネルギーの安定供給が特に注目されるようになる一方で、元々の中心的な研究対象であった化石燃料利用に対して、地球温暖化防止の視点からの制約が増大するなど、まさに時代の変化に応じて様々な技術的課題を解決していく事が求められている状況にある。

日本化学連合という視点でいえば、化学そのものの研究を中心に行っているというよりも、エネルギーの供給、輸送、利用などに関わる様々な実用プロセスにおいて、化学を活用している学会であると言える。

## 2. 関連分野における研究開発や人材育成の状況

本分野は、前述のように化学をエネルギー関連研究に利用するという、化学から見て応用的な学会であるだけに、研究テーマは多岐に亘り、さらに時代の変化に応じて新たなテーマが次々と検討対象に加わっているなど、学会活動の活性化という意味では比較的順調に進展している状況であると言える。ただし、前述のように地球環境問題との関りが深い化石燃料を主要な研究対象の一つとしているだけに、低炭素化、脱炭素化という技術的にも非常に困難な視点を的確に組み込んで行くことが重要になるなど大きな課題も同時に抱えている学会である。教育に関しては、応用的な研究分野だけに、学生の教育に加えて社会人技術者になってからの育成という観点も重要だと考えており、本学会で企画している様々な講習会などを、より有益な教育事業として多くの関係者に活用して頂きたいと考えている。

## 3. 社会に向けて学会から提言したいこと

エネルギーを如何に効率的かつ着実に供給、利用して行くかは、専門的な技術者だけの問題ではなく、一般社会においても関わりが深い国全体で考えて行かなければならない課題である。これに関しては、正しい情報を広く伝え、かつ真に有意義な対策を提案し、社会全体で実践して行けるようにする事が極めて重要である。地球温暖化問題への正しい理解、低炭素化や脱炭素化への現実的な回答、確実かつ高度な省エネルギー社会の構築など、当学会の活動成果から広めて行くべき知見も数多い。今後は、広く社会に向けた情報発信を一層積極的に進め、当学会の活動の成果をより広く活用して頂けるようにしたいと思っている。

## 4. 日本化学連合に期待すること

既に述べたように、当学会は日本化学連合に所属する学会の中では、化学を用いた応用研究に近い分野に属する学会であり、少し大胆な言い方をすれば、化学分野の研究を深化していくというよりも、広く活用していくというスタンスの学会であると考えている。そのような観点から、日本化学連合などを通しての他学会との連携が極めて重要であると思われ、今後は従来以上に他学会との情報交流の推進、あるいは他学会に所属する方々の積極的な当学会での成果発表などを期待している。